

長期優良・性能表示

設計性能評価は前年度超え目立つ

長期優良住宅は安定推移

2022年度の戸建て新着工数に占める設計性能評価率は30.0%、前年度比3.6%増。建設性能評価率は21.0%（同1.8%増）となり、いずれも前年度を上回った。また設計性能評価は過去5年で最大、建設性能評価も20年度に次ぐ実績となった。特に設計性能評価は近年、戸建てに占める比率が高まる傾向にある。2022年度は、三井ホームも大幅の増加の一因となっており、実績でも前年度を上回った。またランキンング内でも、上位企業は設計性能評価とほぼ連動した実績となっている。ただ、設計性能評価と比べるやや取り組みが安定した推移といえる。

去5年で最大、建設性能評価も20年度に次ぐ実績となった。特に設計性能評価は近年、戸建てに占める比率が高まる傾向にある。2022年度は、三井ホームも大幅の増加の一因となっており、実績でも前年度を上回った。またランキンング内でも、上位企業は設計性能評価とほぼ連動した実績となっている。ただ、設計性能評価と比べるやや取り組みが安定した推移といえる。

近年、各社がZEH状況にはばらつきがあるが、長期優良住宅は住友林業が頭一つ抜け出し、実績を大幅に更新した。ランキンング外の企業に占める長期優良住宅シェアでは21年度を上回っている。住宅着工戸数が低調ななか、戸数では伸びが鈍り、長期優良住宅への取り組み自体は引き続き各社が重視している。

長期優良住宅戸数
単位：戸、()内は前年度比%

順位	会社名	22年度
1	住友林業	8,057(100.5)
2	タマホーム	6,151(—)
3	東栄住宅	4,649(98.0)
4	三井ホーム	2,043(87.3)
5	ウッドフレンズ	906(110.7)
6	スウェーデンハウス	820(—)
7	ヒノキヤグループ	658(—)
8	LIXIL住宅研究所	581(—)
9	ポラスグループ	483(119.0)
10	大和ハウス工業	300(81.5)
11	三菱地所ホーム	266(68.0)
12	トヨタウッドユーホーム	259(100.8)
13	古河林業	253(90.0)
14	アエラホーム	240(—)
15	新和建設	181(—)
16	北洲	174(103.0)
17	ヤマサハウス	170(—)
18	サーラ住宅	158(—)
19	グランディハウス	144(1800.0)
20	ライフデザイン・カバヤ	135(—)

※大和ハウス工業は木造の実績

住宅性能表示件数（設計評価）
単位：戸、()内は前年度比%

順位	会社名	22年度
1	一建設	11,281(103.5)
2	アネストワン	10,795(—)
3	住友林業	8,533(101.5)
4	飯田産業	6,184(—)
5	タクトホーム	5,105(112.4)
6	東栄住宅	5,101(101.0)
7	アイディホーム	3,048(—)
8	三井ホーム	1,291(1016.0)
9	大東建託	1,078(132.0)
10	県民共済住宅	1,074(102.8)
11	ウッドフレンズ	990(98.6)
12	グランディハウス	814(183.3)
13	AVANTIA	639(—)
14	フジ住宅	623(83.0)
15	トヨタウッドユーホーム	491(88.3)
16	大和ハウス工業	300(81.5)
17	ポラスグループ	366(152.5)
18	古河林業	295(90.0)
19	スウェーデンハウス	243(—)
20	ヤマサハウス	174(—)

※大和ハウス工業は木造の数字

住宅性能表示件数（建設評価）
単位：戸、()内は前年度比%

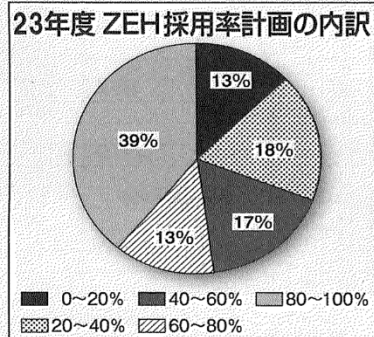
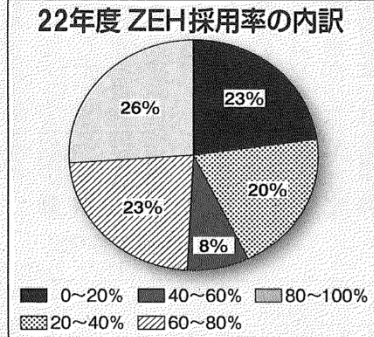
順位	会社名	22年度
1	一建設	11,281(103.5)
2	アネストワン	10,713(—)
3	住友林業	8,527(101.6)
4	飯田産業	6,184(—)
5	タクトホーム	5,105(112.4)
6	東栄住宅	4,951(105.0)
7	アイディホーム	3,048(—)
8	県民共済住宅	1,064(101.8)
9	ウッドフレンズ	990(98.6)
10	フジ住宅	623(83.0)
11	トヨタウッドユーホーム	498(89.6)
12	大和ハウス工業	300(91.5)
13	古河林業	295(90.0)
14	ヤマサハウス	197(—)
15	高砂建設	87(—)
16	大東建託	70(159.0)
17	三菱地所ホーム	37(—)
18	三井ホーム	32(152.4)

※大和ハウス工業は木造の数字

大手はZEHがほぼ標準の時代に

地場ビルダーも採用率上昇図る

ZEH(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)野に力を入れている。大手ハウスメーカーは、近年のZEHとて、1棟当たりの標準の標準になりつつあり、普及の加速は建築コストを改善する動きも広がっている。ZEH水準の性能値化・高性能化の提案も含めると、各社が注力している。断熱性能等級の上位等級が創設され、2025年には省エネ性能も予想されるなど、優越した省エネ性能を備えたZEHは付加価値として、戸建てのZEH採用率を押し上げる動きも目立っている。



基準への適合義務化が据えてZEHに取り組みやすくなる。さらに、30年以内で、今年、各社のアンケートを基に、住宅業界のZEH水準は、分譲住宅中心のビルダーではZEH水準の住宅供給はまだ発展途上という状況にある。一方、ハウスメーカーのZEH採用率は80%以上が目立っている。ただ、今後採用率が上がる基本路線だが、既に採用率は高水準にあり、大幅な上昇が見込まれる。木造3階建ては首都圏で大きなシェアを持つオープンハウスグループが今回も強さを発揮し、21年度よりも実績を伸ばした。ランキンング上位では一建設、ウッドフレンズ、アネストワン、県民共済住宅が21年度より供給を増やしたが、全体としては、21年度実績を下回った企業が目立っている。22年度住宅市場の縮小傾向が強まったことで、木造3階建ての供給数も減ったと見られる。また首都圏などの大都市圏では用地価格の上昇も影響した。

ZEH(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)野に力を入れている。大手ハウスメーカーは、近年のZEHとて、1棟当たりの標準の標準になりつつあり、普及の加速は建築コストを改善する動きも広がっている。ZEH水準の性能値化・高性能化の提案も含めると、各社が注力している。断熱性能等級の上位等級が創設され、2025年には省エネ性能も予想されるなど、優越した省エネ性能を備えたZEHは付加価値として、戸建てのZEH採用率を押し上げる動きも目立っている。

木造3階戸建て
()内は前年度比%

順位	会社名	22年度
1	オープンハウスグループ	5,970(111.5)
2	一建設	474(104.6)
3	タマホーム	248(113.8)
4	ポラスグループ	118(70.2)
5	ウッドフレンズ	144(109.1)
6	アイディホーム	77(91.7)
7	三菱地所ホーム	63(74.0)
8	ヤマダホームズ	59(88.1)
9	秀光ビルド	48(58.5)
10	アネストワン	45(125.0)

木造3階の普及

木造3階建ては首都圏で大きなシェアを持つオープンハウスグループが今回も強さを発揮し、21年度よりも実績を伸ばした。ランキンング上位では一建設、ウッドフレンズ、アネストワン、県民共済住宅が21年度より供給を増やしたが、全体としては、21年度実績を下回った企業が目立っている。22年度住宅市場の縮小傾向が強まったことで、木造3階建ての供給数も減ったと見られる。また首都圏などの大都市圏では用地価格の上昇も影響した。

木造3階建ては首都圏で大きなシェアを持つオープンハウスグループが今回も強さを発揮し、21年度よりも実績を伸ばした。ランキンング上位では一建設、ウッドフレンズ、アネストワン、県民共済住宅が21年度より供給を増やしたが、全体としては、21年度実績を下回った企業が目立っている。22年度住宅市場の縮小傾向が強まったことで、木造3階建ての供給数も減ったと見られる。また首都圏などの大都市圏では用地価格の上昇も影響した。